

# 目 次

序	
目 次	
1 調査経過	3
2 中金堂院の歴史と空間利用	4
3 遺 構	6
(1) 回廊基壇上の遺構	6
(2) 基壇縁と外周の遺構	10
(3) 内庭部の遺構	14
4 出土遺物	16
(1) 瓦	16
(2) 土 器	18
(3) 銭貨・金属製品	18
(4) 石 材	19
5 回廊の柱間寸法と「楽門」	20
6 結 語	22
報告書抄録	24

## 例 言

1. 本書は興福寺第1期境内整備事業にともなう平成14年度発掘調査概要報告書である。
2. 調査は興福寺の委託を受けた奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部が、平成14年7月1日から平成14年11月1日にかけて実施した。
3. 調査は、井上和人・長尾充・今井晃樹・神野恵・山本紀子・山本崇が担当し、木本拳周（東海大学）、瀧口泰孝（近畿大学大学院）、月村謹文（帝塚山大学）、長浦兼一（帝塚山大学）、中島陽（大阪市立大学大学院）、西川知秀（近畿大学）、西野摩耶（慶應義塾福沢研究センター）、登尾聡（大阪市立大学大学院）、矢倉嘉人（帝塚山大学大学院）が参加した。
4. 調査ならびに本書の編集にあたっては、文化庁、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、大阪市立美術館の協力を得た。
5. 本調査は、平城宮跡発掘調査部の平城第347次調査として実施したもので、各遺構には平城京左京における調査基準に従い一連の番号を付した。発掘遺構図等の座標値は、国土方眼旧第Ⅵ座標系による。
6. 本書の作成は、当調査部長・金子裕之の指導のもと調査員全員があたり、全体の討議をへて行った。編集は今井晃樹が担当し、各項は執筆を分担した。  
    1・2 山本紀子、3・4-(1)・5・6 今井晃樹、  
    4-(2) 神野恵、4-(3) 井上和人、4-(4) 長尾充
7. 遺構・遺物の写真は、牛嶋茂・中村一郎・杉本和樹が撮影した。
8. 本文中では『興福寺 第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅰ～Ⅲ』を『概報Ⅰ～Ⅲ』、『興福寺流記』を『流記』と略称する。